

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （店員）	・愛知万博も終了し、また知床の世界自然遺産登録等もあり、北海道観光へシフトしてくるような流れがこれから現れる。去年が景気の底と考えれば、ここ数か月間は売上、来場数、来客数が増えているので、これから3か月先についてはかなり期待している。
		家電量販店（地区統括部長）	・来年、札幌市及び近郊地域において地上波デジタル放送が開始されるのに先立ち、ますますデジタル家電の需要が加速していく。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・ここに来て冬物のトレンドがみえてきたことから、ファー物や防寒コートがコンスタントに出れば、売上も上がってくる。
		スーパー（店長）	・食品は単価要因、競合要因等があり、現状のままのトレンドで推移すると予測できるが、衣料品、住居用品は季節商品の動向が良く、前年比が100%を超過している現状のトレンドを年末まで維持できる。
		衣料品専門店（店長）	・近くに大型店の出店計画があるため、地域的に客足が増えることで自店へのプラス効果が期待できる。
		乗用車販売店（営業担当）	・物販の量が前年に比べて増えてきている流れから、今後についても期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・愛知万博の閉幕に伴い、道外からの観光客、特に団体客の増加が期待される。ただし、宿泊単価は、いくぶん強気で出せるが、付帯収入が伸び悩むことが予想される。自社アンケートでは、売店に欲しい商品がないという回答が増加しつつあり、景気よりも企業努力の問題になってきている感がある。
		旅行代理店（従業員）	・選挙後の来店数や申込件数の増加から旅行客の動きが活発になっており、景気が上向いていることを感じる。一方、価格志向の動きが強く、販売商品の工夫をしなければ、良くなってきた波に乗るのが難しい。
		旅行代理店（従業員）	・選挙が一段落し、将来への不安解消が緩和してくるムードになれば、旅行等の余暇にお金を使う傾向が出てくる。海外旅行の動きが活発である。
		観光名所（役員）	・ローブウェイ、レストラン等の予約状況が改善されつつあることから、今後は良くなる。
		設計事務所（職員）	・知床の世界自然遺産登録で、観光入込客数が増加しており、宿泊施設の客入りも、周辺の網走、川湯周辺まで波及する形で増大している。また、室蘭では大手鉄鋼メーカーなどの大企業がフル操業で、経済効果が生まれ始めている。そうした状況のなか、知床周辺の宿泊施設や室蘭市内の事業投資施設の設計依頼が増加傾向にある。
		変わらない	一般小売店〔酒〕（経営者）
	百貨店（役員）		・全体的に季節商品の動きが悪く、客の購入意欲も感じられないものの、特定客を対象にしたイベントを企画し集客を図ると、来客数、売上とも確保できる。現状では先行きの判断が非常に難しい。
	スーパー（店長）		・早くも灯油価格の上昇が話題になっているが、これから需要期に入る北海道としては非常に厳しいものがある。
	スーパー（店長）		・販売量でみると、9月は前年比101.5%と若干伸びているが、このところの売上高の低迷を考えると、景気の足踏み状態はもうしばらく続く。
	コンビニ（エリア担当）		・客数は前年とほぼ同じ数で推移している。しかしながら同じような商品であれば安い商品を買う傾向が続いている。こうした動きが年内に変わるとは思えない。
	コンビニ（エリア担当）		・企業業績が上向きになっているとの報道があるが、原油高、豊作による農作物の価格下落のほか、増税の話も出ており、消費者の買い控えが続く。
衣料品専門店（店長）	・例年より人出も良くなり、売上ももちろん減少している。これから寒くなるが、石油製品の値上げもあり、決して良くはない。		
住関連専門店（従業員）	・冬物商品がどう動くかが不鮮明なのではっきりしない。		

	高級レストラン（スタッフ）	・観光客は道内客ではなく本州客が多く、特に半分以上が中部圏からの観光客である。愛知万博が閉幕した反動で秋冬にかけて観光客に來道してもらうことができれば、わずかも期待は持てる。	
	観光型ホテル（経営者）	・愛知万博が9月で終了したので、10月以降は多少悪くても今までのようなことにはならない。予約状況から判断しても客数は多少増えるが、前年比で見れば同等か若干下がる見通しである。	
	タクシー運転手	・3年前の規制緩和以降、札幌では毎月タクシーの台数が増えている。10月からは寒くなっていくに連れて、タクシーの利用が少しずつ増えてくる時期であるが、今年の今までの状況から判断すると、タクシーの利用客が増える見込みはなく、タクシーの台数が増えているだけに、1台当たりの売上はますます厳しくなっていく。	
	タクシー運転手	・タクシー業界は、特に天候に左右される業種であるが、降雪期までの少しの間、まだ上昇は期待できない。	
	住宅販売会社（従業員）	・住宅業界においては、戸建て志向がかなり遠のいている状況にある。抜本的な改革がないことには、この状況はなかなか脱皮できない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・石油製品の値上げの問題があり、灯油などは段々と価格が上がってきているので、当然、客は財布のひもを締める方向へ動く。このことから判断して、先の景気はなかなか厳しい。	
	百貨店（売場主任）	・原油価格上昇の悪影響が様々な分野で始まった。冷静に考えて、このことだけを取っても良い方向に動くとは思えない。	
	百貨店（売場主任）	・ウォームピズでの動きが期待できる反面、暖冬が予想されることでコート関連の動きが厳しいことも懸念されるので、やや厳しい状況となる。	
	百貨店（売場主任）	・北海道はこれから暖房費用がかかるが、原油高の影響が懸念される。また自動車等での遠出など自動車の利用自体も少なくなる。	
	スーパー（企画担当）	・原油価格の高騰が続き、水道光熱費の値上げ圧力の高まり、特に北海道の場合は冬の暖房費の高騰も予想されることから、この冬にかけて客の購買行動は更に慎重になることが予想される。	
	コンビニ（エリア担当）	・原油の高騰により、主である漁業等で経費の圧迫が進み、利益が出なくなっている。基本的に当地域は第一次産業が多いため、この影響が非常に大きくなる。消費者に対する収入が減少することも含め、今後も消費については向上は望めない。	
	コンビニ（店長）	・最近、競合する全国ナンバーワンのチェーン店で、スーパーとの垣根を外すために、飲料等の価格格差をなくして安く売ろうという動きがある。当店もやはり追随していくとなると、更に単価の下落につながるのではないかと懸念している。	
	乗用車販売店（従業員）	・前年と比べて、かなり厳しい状態になっている。他の販売店も良くないと聞いているので、今後については厳しい。	
	旅行代理店（従業員）	・今後の年金改正、消費税率改正の動きが取りざたされており、先行きに不安感があるようだ。少しでも安く、又は不要な買物はしないなどの話が多い。	
		設計事務所（所長）	・来年の物件の出足が良いのだが、中国景気、原油高に加えて、先日のハリケーンなど、建設費高騰の要因が多く、実際にじりじりと上がってきている。それらが原因となって一時的に失速する。
	悪くなる		
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・下期の案件が早めに出てきている。人手不足になってきており、外注の確保が難しくなっている。
	変わらない	金属製品製造業（経営者）	・秋に向かい、灯油や原油の値上がり傾向が輸送コスト等に影響を大きく及ぼし、大変心配な状況にある。特に北海道は燃料需要が今後増大するため、その点についても心配である。

		金融業（企画担当）	・原油価格の高騰で灯油、ガソリン価格が上昇している。所得環境が改善しない中で、需要期になる灯油価格の上昇は家計を圧迫する。ガソリン価格の上昇も運輸業など各業界にとっては痛い。原材料価格も上昇しており、大半の企業は価格転嫁が不十分で収益面にマイナスとなる。雇用が改善しているが、総じて見れば景気先行きは変わらない。
やや悪くなる		輸送業（支店長）	・物流量で見ると、年内はそれほど大きな落ち込みはないと思われるが、物流量が減少し始める11月以降、燃料費のアップが価格に転嫁できないということと相まって、企業収益は大きく落ち込むことと想定される。経営環境の悪化も懸念される。
		輸送業（営業担当）	・船会社の値上げ要請は待たなしの状態にもかかわらず、荷主には受け入れてもらえない状態が続いているため、今後についても最悪の状態が続く。
		司法書士	・土地価格が底値と言われているが、それでも土地の売買が少なく、土地売買に伴う住宅新築件数も少ない。
		その他非製造業 [機械卸売]（従業員）	・下期にかけて、道内の新規建築工事、土木関連工事とも低調に推移しているため、金属加工業全般にわたって、下期の受注見込みが低迷しており、消耗資材、生産材とも上期からは13～15%の減少となる見通しとなっている。
悪くなる		建設業（経営者）	・受注がほぼ一巡し、今後、新規の受注がほとんど見込めない。手持ち工事も完了する物件が出てきて、活動が徐々に低調になる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・楽観視はできないが、運輸・物流業界を除いたほぼすべての業種で上昇傾向がみられる。
		学校 [大学]（就職担当）	・現在も企業からの求人が届いており、就職活動が続いている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・基幹産業の農業は堅調であるが、建設関連の求人広告が大幅に減少している。求人広告が入っても本州方面への請負が多いのが実情である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・年末商戦に向け、小売、飲食の求人は引き続き好調が続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・現在は、アルバイト、パート、契約社員、派遣社員などの臨時雇用の求人が盛んであり、正社員の求人が伸びていない。今後、景気が良くなるためには正社員の求人が伸びることが必要である。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が4か月連続で前年を下回っている。求人の大部分は欠員補充であり、増員による求人がみられない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年比で8か月連続で増加しているが、増加しているのは業務請負業の期間雇用の求人であり、求職者の約9割を占める地元での常用雇用を希望する者の雇用環境は依然として厳しい状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・8月の月間有効求人倍率は0.49倍で前月及び前年より改善されているが、全道平均を下回っており、依然として厳しい状況が続いている。
	やや悪くなる		
悪くなる	-	-	